



# JEG ニュースレター 164号

www.jegschweiz.com

2018年2月3日発行

## 小さな証

夫婦である朝のデポーションから潤いと活気が、フランクフルトJEG会員の証。 P2

## 賛美コンサート

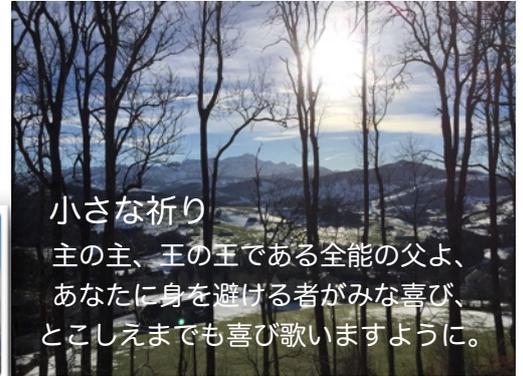
3月9日の賛美コンサートの実現にむけて、準備と広報が着実に進んでいます。 P3

## ユースキャンプ

今年もチューリッヒ近郊でスイスJEG主催のユースキャンプが開催され、その証集が完成しました。

## 日出づる国から

母国日本から、東南アジアから、地球の裏側から、新年の挨拶とともにホットな近況報告が届きました。 P4-6



## 小さな祈り

主の主、王の王である全能の父よ、  
あなたに身を避ける者がみな喜び、  
とこしえまでも喜び歌いますように。

シオンよ。恐れるな。氣力を失うな。

あなたの神、主は、あなたのただ中におられる。救いの勇士だ。

スイスJEG年間聖句 ゼパニヤ書 3:16-17

”朝の30分がその日を決める”田辺正隆牧師が好んで口にされたことばです。神さまとの対話でもある毎朝のデポーションがキリスト者にとって、どれ程大切か言うまでもありません。多くのすぐれたデポーションブックがありますが、スイスJEGでもっとも用いられているのが”みことばの光”です。



## ちいさな証

## ”みことばの光”で豊かな交わり

中村京子

フランクフルト日本語福音キリスト教会会員



一人で聖書を読んでいると分からないことにぶつかることがあります。そんな時に会ったのが「みことばの光」でした。

私たち夫婦は定年になり数年が過ぎました。趣味

といえば「読書」しかない主人です。日頃口数も少ないし、静かな老夫婦の生活です。兎に角、声を出すことも少なくなりました。心配なことがありました。これでは認知症になるのではないかということでした。それぞれが別の部屋で別の時間を過ごし、食事の時のみ話をするという生活のリズムでした。

何か二人でできることは？と、考えた時、思わされたのが毎日聖書を声を出して主人と読み「みことばの光」を手引きにしようという考えです。私たちはそれぞれ一冊ずつ「みことばの光」を購読しています。夫婦向かい合ってもあまり話すことがなかった生活の中に、「みことばの光」を用いて聖書の分からない箇所を話しあったり、分かち合ったり祈り合うことにより、今までの生活に潤いと活気が出てきました。

聖書と「みことばの光」を読むことから始める毎日になりました。目から鱗が落ちるといのはこういうことなのかと嬉しくなります。主人と二人で話し合ったり祈り合ったりする時間がこのように「みことばの光」を用いて与えられていることに、感謝の気持ちでいっぱいです。

ますます、多くの人びとに「みことばの光」が読まれ、新たなみことばの広がりへの貢献となるように祈り続けてまいります。

「あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です」

## 新しくなった”みことばの光”

矢吹博

フランクフルト日本語福音キリスト教会牧師  
”みことばの光”編集長

「みことばの光」（戦後版）が発刊されたのは、1955年1、2月号からです。1971年クリスマスに洗礼を受けた私は、通っていた教会が「みことばの光」を用いて聖書を読むことを勧めていましたので、購読することになりました。

しかし、初めのうちは「積ん読」。毎日聖書を読むのが習慣化したのは数年後でした。そんな私が編集者を務めているとは、神さまのみわざ以外の何ものでもありません。

2018年1月号から「みことばの光」は新しい5年サイクルの開始とともに、体裁や内容を刷新しました。本文ページの文字サイズをこれまでよりも少し小さくして、文章量が10%ほど多くなりました。聖書が毎日の生活に届くために、みことばを信仰の友と分かち合うきっかけとなるようにとの願いをもって編集しております。

さらに、発行している聖書同盟を読者に知っていただきたいとして「聖書同盟掲示板」を拡充しました。読者の声も紹介することとしました。

表紙も新しくしました。デザインを引き受けてくださったのは私たちの子ども世代の某牧師。私たちがスタッフをしていた頃に、中学生や高校生のキャンプに参加していた方です。新しい世代の方が「みことばの光」に親しんでほしいという願いが込められています。「思い切ってやってください」と依頼しましたが、最初に表紙案をいただいたときには驚きました。表紙を開けると美しい花の写真が…。スイスに住む信仰の友がこのために、喜んで写真を提供してくださいました。

お友だちに「みことばの光」をお薦めください。また、ご感想やご意見をお待ちしています。

[hiyabu1950@gmail.com](mailto:hiyabu1950@gmail.com)



**1、クリスマス伝道礼拝**

2017年度のスイスJEGクリスマス伝道礼拝を、例外的に3週目の17日にしました。参加者は例年より少なめの家族的な礼拝となりました。折からヨーロッパをコンサートツアー中の佐藤裕希恵姉（昨年7月9日にスイスJEGにて受洗され、その後、東京都小金井市に居住）が賛美に加わってくださり、また、ユースによるスキットも上演され、素晴らしいクリスマスの喜びと賛美に溢れた礼拝となりました。その様子は、次のURLをクリックしてご覧いただけます。（7分半）  
[www.youtube.com/watch?v=iPbUnudJKk4](http://www.youtube.com/watch?v=iPbUnudJKk4)



**2、記録ビデオ 2017年を振り返って** 1月14日の礼拝後、スイスJEG”2017年を振り返って”の記録ビデオのダイジェスト版が上映されました。旧年中、主がスイスJEGになして下さったみ業を感謝をもって振り返りました。

このビデオはYoutubeでもご覧いただけます。（限定公開）  
 スイスJEG2017年を振り返って（17分半）  
<https://www.youtube.com/watch?v=ddeESFdWx6c>  
 スイスJEG2017年を振り返って ダイジェスト版（8分）  
<https://www.youtube.com/watch?v=24-lAyOBb08>

**3、ティーン&ユースキャンプ**



1月5日から7日まで、チューリッヒ近郊の湖グライフェン湖のほとりにあるボーイスカウト（Cevi）施設で、スイスJEG主催のティーン&ユースキャンプが行われました。参加者は全員で16名（部分参加やスタッフを入れると20名

以上）でした。スイスJEGの若者だけでなく、ヨーロッパキリスト者の集いやSLIMカンファレンスで知り合い、日頃から連絡を取り合っている若者たちが各地（フィンランドから3名、ドイツから2名、日本から2名）から集まりました。

キャンプのテーマは「恋愛」（聖書に登場する若者たちから恋愛について学ぶ）で、マイヤー牧師、フィンランドOVMCの加藤たくみ宣教師のお二人には、ご自身の証も含めてメッセージをしていただきました。人を男と女に創造された神様の目的や、聖書から知恵を得て、神様が与えてくださった伴侶と「共に生きる幸い」など非常に深く学ぶことができました。

このニュースレターに、若者自らが編集した証/感想文集が添付されていますのでお読みください。



ティーン&ユースキャンプのスナップから

**4、第25回 教会総会** 1月28日（日）の13時半からスイスJEGの教会総会が開催されました。前もって会員に送付された諸資料をもとに審議が行われ、決算や予算案を含め全案件は承認されました。

役員は、原憲二兄、フォンプラント兄、今村泰典兄が留任となりました。今まで長年役員を務めてきた松林兄は、現在、家族が松林兄姉の支援を最も必要としていることを踏まえ、退任することになりました。従って、本年の役員会はマイヤー牧師を含めて4人体制となり、聖書にある長老としての霊的な役割を役員は集中して果たし、実務的な奉仕は世話人と呼ばれる執事に大幅に委譲することになりました。

**5 賛美伝道コンサート** スイスJEGの歴史初めての工藤篤子/野田常喜賛美伝道コンサート開催まで5週間を切り、実行委員会を中心に準備活動が着々となされています。フライヤーも、スイス在住の邦人のみならず、日本語を母国語としない欧州人にもお越しいただきたいと、ドイツ語によるポスター作成に続き、歌詞、歌の説明、また、マイヤー牧師のパッションについてのメッセージなどがドイツ語訳へと翻訳作業が続けられています。

毎年、チューリッヒ市では、この時期に東日本大震災/福島原発事故関係の催し物が目白押しに続くため、集客には困難も予想されますが、教会員ひとりひとりが個人的にお誘いするほか、主に知恵と力を頂きながらコンサートに備えていきたいと願っています。皆様も祈りによってお支えくださるようお願いいたします。

また、賛美コンサートのためにスイスJEGのホームページに、日本語とドイツ語による特別サイトを設けました。このサイトで

工藤篤子姉の証、賛美歌、野田常喜兄の演奏やインタビューなどがご覧いただけます。  
[www.jegschweiz.com/](http://www.jegschweiz.com/) 賛美コンサート特別サイト/



ドイツ語によるフライヤー

**6、第35回ヨーロッパ・キリスト者の集いの第2信が発信**

8月2日（木）から5日（日）まで、英国エジンバラで開催される第35回集いの第2信が主催教会：エディンバラ日本語教会（実行委員長：山形みほ）によってこの度発信されました。

大会テーマ”キリスト者の変化と成長”の主題聖句『心を新たにす、』ローマ書12:2は、かねてから誤訳を指摘されていましたが、全面改訂となった新改訳聖書2017によって主題聖句を『心を新たにすることで、自分を変えていただきなさい』と改正されました。

申し込みは、オンラインによって3月9日から23日まで受け付けられます。なお、第2信の発信に従って、キリスト者の集いのホームページに特設サイトが設けられましたので、そちらで最新の情報をご覧ください。

[www.europetsudoi.net/](http://www.europetsudoi.net/)第35回-edinburgh特設サイト/

7、世界各地から月報/ニュースレター&メルマガが届いています。オーニング宣教師、クッツ・プリスキラ宣教師、ローゼンクランツ宣教師、フーサー香織・シモン宣教師からのNL/Rundbrief、工藤篤子メルマガ、井野葉由美メルマガ、吉村美穂メルマガ、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会月報、ルーマニア川井勝太郎宣教師の週報、ブリュッセル・ミサ便り、パリ・プロテスタント日本語キリスト教会バルタージュ、イザール通信、夜越山からの便り、ミッション”宣教の声”が届いています。お読みになりたい方は、松林までご連絡ください。

# 日出づる国から

## 「はからずも」の恵み

細川勝利  
旭川緑が丘教会



語学音痴の小生が在外邦人教会との豊かな交わりに加えられたのは、100%「はからずも」の出会いによる。

1. 約30年前、小生が札幌、北栄教会牧師の時、学生の頃お世話になったM・グリフィスLBC学長が教会に来られ「君は狭い考えに陥りやすいから一度LBCに来なさい」と助言下さった。その結果一年間LBCに行き、そこでロンドンJCFはじめ、在英邦人伝道の意義を教えられた。

2. 東京・浜田山教会牧師だった60才前に「60才以降は地方かつ無牧の所で奉仕したい」と祈った。そして石川県の辰口キリスト教会（日本長老）に導かれた。そこで、はからずも、かつて北海道での知り合い高木攻一牧師に会い、ウィーン教会の留守番に来て欲しいと依頼された。



ウィーン・ルター教会

その後ウィーン教会の留守番にかけ、その時ヨーロッパキリスト者の会に出席した。そこではからずも、無牧だったパリ教会で奉仕することにもなった。当時フランスに興味も知識もなかったにも拘らず、はからずも「パンとケーキ」の虜になった。その結果ウィーン及びパリで重ねて奉仕することになった。

3. 3.11東日本大震災後、パリ教会の作

田兄が復興と新会堂建設のために在欧諸教会に祈りの要請をして下さり、2014年秋に献堂に導かれた。十数人の会員で積立百万円でも全能の神は全世界の神の教会を用いて約6500万円の会堂を完成下さった。15年の「キリスト者の会」で神の御業のすばらしさを報告し、感謝を述べる恵みを与えられた。



14年に献堂された茨城・那珂湊教会

4. 16年パリ同時多発テロの時「はからずも」パリ教会で奉仕中「類天疱瘡」を発症し、急遽帰国し、筑波大病院に入院。3ヶ月後退院し通院加療しながら、ブリュッセル教会、旭川緑が丘教会で奉仕している。

5. これ以外に紙面の関係で書ききれないが多くの在外邦人教会と交わりを与えられた。

以上、小生が在外邦人教会と交わりが与えられたのは全く「はからずも」である。そしてこれは、100%神の「はかりごと」であり恵みである。そのことのゆえに主を賛美し感謝している。

## 「開かれた門を通り」

高木攻一  
泉佐野福音教会



10年のウィーン生活を後に2015年4月、大阪は泉佐野に赴任し二年半になります。無所属でその年に70歳になる

うとしていた私の前に、多くの教団が定年制を敷いている日本の現状では、働きの可能性は無いも同然でした。

しかしながら、それに先立つ1年前、主が約束のみ言葉を賜りました。『見よ、わたしは、あなたの前に、だれも閉じることのできない門を開いておいた。(黙示録3:8)』すると、不思議と無牧であった泉佐野福音教会からの招聘があったのです。

礼拝には30名ほど出席する小規模ではありますが、エレミヤストーンで覆われた三階建の美しい会堂に、広い駐車場を備えた装備万全の創立50年目を迎える教会でした。

## 主イエスと共に： 田辺正隆、みや子 奥多摩福音キリスト教会

私たちのヨーロッパでの20年以上の生活は、夢の中の「竜宮城」だったような思いです。かつて若かった方々の息子さん娘さん、お孫さんがかつての方々と重なって、自分も80歳以上になっていることを忘れて、「とんちんかん」になって、浦島太郎夫婦ながら!? 自分も面喰らい、他人も面喰らわせてしまいます。



天の下では、何事にも定まった時期があり、すべての営みには時がある。(伝道者の書 3:1)神のなさることは、すべて時にならって美しい。しかし人は、神が行われるみわざを初めから終わりまで見きわめることができない。(伝道者の書 3:11)心からみなさまのご愛に感謝し、皆さんと共に主の備えられた道をしっかりと歩んで行きたいと願われています。

主イエスと共に 歩みましょう 何処までも

嬉しいときも 悲しい時も 歩みましょう 何時も

ところが着任して知らされた教会内部事情は深刻で、その前年に若い前任牧師が事情あって有力信徒を誘って離脱していたのです。残された方々が受けた深傷は当然重く、まさに手当を必要とする状況でした。

初対面であったにもかかわらず、彼らが私たち夫婦に示された歓迎と親愛の情に、正直言って心打たれました。確かに主が彼らを牧するために遣わされたその聖意を私たちは理解しました。

私はハンガリーの銘酒トカイワインを想起させられます。トカイ地方がトルコ軍に襲われた為、収穫が遅れて房は萎び、特殊な菌で腐りかけた葡萄から何と絶品が産出されたのです。試練を経た教会に、それなりの深い熟成した芳醇な味わいが感じられる昨今です。

## 神さまにより頼んで

大八木清一・タビタ  
献・勲

Seiichi und Tabitha Oyagi mit  
Silas(13) und Kenas(11)



1月も半ばになりましたが、小さなあいさつや近況報告を送りたいと思います。私たち家族は元気です。

Zum begonnenen Jahr möchte ich euch alle herzlich grüssen. Uns als Familie geht es gut.

年始は、去年に続いて、家族そろって奥多摩福音の家の新年聖会に参加しました。川越キリスト教会の岸本先生のメッセージを聞き、72人のメンバーと様々な交わりによっても祝福され、子どもたちも子供のプログラムに参加したり、同年代の男の子と卓球を遊んだりして、充実した一時でした。

Am Neujahr waren wir wie letztes Jahr zu viert an der Neujahrsfreizeit im Okutama Fukuin no Ie. Wir hörten drei wunderbare Predigten von Pastor Kishimoto, tauschten uns mit verschiedenen Teilnehmern aus, und auch die Kinder konnten am Kinderprogramm teilnehmen und mit Gleichaltrigen Jungen Tischtennis spielen.

長男の献(ささぐ、13歳)は、中学校二年生で、大きな重たいかばんを背負って、毎日92ものステップのある階段を上って登校しています。月曜日と木曜日は塾に通い、頑張っています。とてもいい塾を見つけることができ感謝しています。教会では、一人だけの中学生なので、牧師と一対一の中学科と、小学生と合流するのを交互にして日曜日の礼拝を守っています。

Silas ist in der 8.Klasse und schleppt jeden Morgen seinen schweren Schulrucksack 92 Stufen eine Treppe hinauf zur Schule. Montags und Donnerstags geht er abends in einen Aufbaukurs, wie die meisten Schüler in Japan. Wir sind dankbar, dass er dort einen sehr guten Lehrer gefunden hat. In der Gemeinde ist er der einzige Teenager. Abwechselnd hat er sonntags allein mit dem Prediger Bibelstudium oder nimmt mit den Grundschulern zusammen am Kindergottesdienst teil.

次男の勲(いさお、11歳)は、小学校6年生で、今年の春に小学校を卒業し、新しい歩みに踏み出そうとしています。今月、デパートへ行って、初めての制服を注文することになっています。いろいろな不安があっても、神様により頼んで、新生活に向かっていくことができまようにお祈りいただければ幸いです。学校では何年かぶりに気の合うお友達に会い、その子と同じ空手教室に通い始めました。



Kenas ist in der 6.Klasse. Diesen Frühling schliesst er die Grundschule ab und kommt in die Mittelstufe (7.-9.Klasse). Noch diesen Monat gehen wir ins Kleidergeschäft, um seine erste Uniform zu bestellen. Betet Ihr mit, dass er den Wechsel in die neue Schule im Vertrauen auf Jesus schafft? In der Schule hat er seit Jahren einen guten Freund gefunden und geht seit neuestem mit ihm ins Karate.

## 主にある期待を！菊地祥彦、恵美 オーストラリア

地球の裏側、オーストラリア・アデレードで、僕は真理の成長を楽しく見守りつつ、元気に暮らしています。

ヨーロッパは、例年にも増して寒く雪の多い冬を迎えてるみたいですね。YouTubeでスイスの動画を見ましたが、とても美しい景色が広がっていましたね！僕も恵美も「うわぁ！良いなぁ！」と言いながら見入りました。おっしゃる通り、オーストラリアは夏です。35度を超える日もあり、湿度が少ないのは助かりますが、やっぱり暑いんですね。でも、三人とも健康も守られて、のびのび暮らしています。

僕らの方は、真理がたまに風邪を引くので、その度に朝夕毎日祈ります。今も少し風邪を引いていて、今日も鼻水を垂らしていました。



クリスマスには、アドベントの期間から、日本に比べると豊富な品揃えのオーストラリアのキリスト教書店から、夫婦で取り組むディボーションブックを買い、毎晩二人でそれを読み、ディスカッションをすることができ、祝福されたときを過ごすことができました。愛する欧州、そしてスイスのみなさま、新年も主にある期待をもって迎えましょう！

夫は、去年の春から、久しぶりに都内のキャンパスに通勤することになりました。いろいろなチャレンジや、難しい人間関係の中でも、主の恵みに支えられて、与えられている仕事に励んでいます。いつか、神学や政治思想、哲学などを勉強したいという思いを持っていますが、その願いはかなうかどうかはまだ分かりません。

Mein Mann muss seit April nach Tokyo an die Arbeit. Er steht in

verschiedenen Herausforderungen, und es gibt immer wieder auch zwischenmenschliche Probleme, aber er füllt im Vertrauen auf Jesus seinen Platz aus. Er möchte eines Tages gerne Theologie, Staatswissenschaft und Philosophie studieren, aber ob dieser Wunsch in Erfüllung geht, wissen wir noch nicht.

私は、なるべく家族のスケジュールに合わせて、教会の奉仕や、宣教団の事務所のお手伝いなどを行っています。

大きくなっている子供たちの、幼い時からの信仰が本当に自分の信仰告白に成長していくようにと願っています。

Ich versuche mich möglichst nach den Bedürfnissen der Familie zu richten und helfe daneben in der Gemeinde und im Büro der Liebenzeller Mission mit. Es ist mir ein grosses Anliegen, dass Silas und Kenas von ihrem Kinderglauben zu einem persönlichen Glaubensbekenntnis finden.

皆様に今年も、主のかわらぬ愛と導きが豊かに与えられますように心からお祈りいたします。



Ich bete, dass Ihr alle auch im neuen Jahr von der Liebe Gottes getragen und auf seinem guten Weg geführt werdet.

## イエス様は常に真実なお方

矢部晶宏・幸恵・理央

宇都宮市 峰町キリスト教会



スイス日本語教会のニューズレターをお読みになっている皆さま

ま、新年明けましておめでとうございます。

私たち家族は今、韓国に来ています。2019年1月からオーストリア・リンツでイスラム教徒の移民・難民を対象とした宣教活動を行う予定なので、祈りのサポーターを募るため、デピューテーション(教会訪問)に来ました。

日本では連日、不安を煽る北朝鮮のニュースが報道されていますが、軍事境界線からさほど遠くないこちらの生活は、日本の報道が嘘かと思うような静けさです。

韓国は、宣教1世紀の間に国民の約20~25%が福音化されたという、2千年のキリスト教史上類を見ない記録を打ち出した国です。今回、そのリバイバルの鍵となる場所、ヤンファジン(朝鮮半島への宣教師たちの墓地)を訪ねる機会が与えられました。韓国のリバイバルは、この国の人々を愛し、文字通りすべてを

捧げた宣教師たちの信仰と祈りと献身があったからだと知りました。イエス様に人生を捧げた人々の証を見聞きするなかで、キリスト者として生きるとはどういうことか?本当の幸福とは何か?と考えさせられました。

「彼(イエス様)に信頼する者は、決して失望させられることがない。」と1ペテロ 2章6節にあります。神様は、韓国に対する切なる祈りに答えられたように、日本やスイスのために積み重ねられている祈りや愛の犠牲をちゃんと覚えておられる。まだ救われていない家族や友人のための心の叫びを一つも忘れておられないと深い確信に包まれました。



「私たちは真実でなくても、彼(イエス様)は常に真実である。彼にはご自身を否むことができないからである。2テモテ2章13節」私たちは信仰の錨をしっかりと降ろし、失望知らずの真実な方に信頼し、2018年を歩みたいと思います。スイス日本語教会に関わられるお一人お一人が主の恵みによって導かれ、ますます祝福の基として用いられますように、心をこめて祈っています。私たちの宣教の準備のためにもぜひお祈りください。

Gott segne euch alle!

## 東西の交流が進むシンガポール

松本章宏、正子

シンガポールJCF



スイスそしてヨーロッパの愛する皆さん、あけましておめでとうございます。2012年7月に「渡り鳥夫婦」としてお世話になりました松本章宏・正子です。

シンガポールでの働きも6年目に入ろうとしています。この期間、松林さんご夫妻やヘス明美さんが私たちを訪問し、スイスの風を運んでくださいました。今年3月には、さらに3年間任期を延長するかどうかの臨時総会が開かれます。

4月にはドイツで行われるSLIMに夫婦で参加させていただくことになりました。6年ぶりのヨーロッパとなりますが、懐

かしい皆さんにお会いできることを今から楽しみにしています。

来年2月にはシンガポールから4回目の聖地旅行を行います。今回は途中2日間、ヨーロッパ組と日本組とアジア組と一緒にメシアニックジューを招いてカンファレンスを開くという「エルサレム会議」という企画があります。

シンガポールからヨーロッパへ、ヨーロッパからシンガポールへ転勤する方も増え、ますます東西の交流が進んでいることを実感します。このような形で海外日本語教会のネットワークがさらに強められ、共に主の栄光を現すことができるように願っています。今年もどうぞよろしくお祈りいたします。



今年1月14日の洗礼式にて

北のスオミから  
スイス・ユースキャンプに参加して

加藤たくみ／水村幸与／日比千尋  
OVMC Finland

神なく望みなくの若い時代

ハレルヤ！主の御名をほめたたえます。

2018年幕開けは、日本からの兄弟姉妹をお迎えしての「ラップランド元旦・森サミット」に始まり、5日からスイス湖畔での「ティーン&ユースキャンプ」と主の恵を受けてのスタートとなった事をあらためてここでスイス日本語福音キリスト教会の皆様にご挨拶申し上げます。

今回、私とOVMC Finlandの2名のユース、日本からの若者2名で参加させて頂きました。テーマは、「恋愛」。正直なところ、このテーマについて私の人生は、「ティーン&ユース」の若者達のお手本といえた歩みでは決してなく、マイヤー牧師からお話を頂いた時には「参ったな〜」と思いました。しかし、イエス様の前に出て祈る時に、神様は、このイエス様の尊い十

字架の血潮でかいもどされた若者達を本気で愛しておられ「主にある聖さの内に守りたいのだ」という事がひしひしと伝わってきました。そして、私の愚かな失敗談を通して、主の「聖さ」の中に留まり続ける事を伝えるのが、主のみ心だという事も分かりました。

初日、マイヤー牧師の「創世記：若いヨセフの誘惑」メッセージ後、「神なく望みなくの若い時代を過ごした私の愚か者の証」と「神の御心に従い続けたマイヤー牧師の証」というコントラストを持ってスタートし、続いて「第1サムエル記：若夫婦エルカナとハンナの試練」「第2列王記：若いソロモンの選択。信仰と恋人とに挟まれて」とマイヤー牧師が、最後に「使途の働き：サピラとアナニアの失敗から学ぶ 神のきよさに生きる」と私がメッセージをさせて頂きました。毎回、応答の時間をスモールグループでもち、最後に主から語られたチャレンジを書きとめ互いのために祈るという時を持ちました。

私自身が、今回の準備をするにあたって、この世の価値観と神の国の価値観を明確に教える事、またそれに従う事をすすめることを語られました。またキャンプ中には、実際に「牧師として恋愛の態度をどう考えるか？」という質問を受け、正直その単刀直入な質問に驚きを隠せませんでした。主に祈り求め、キリストの愛を持って、率直に妥協しない神様の教えを守るための模範的

な態度についての意見を語らせて頂きました。何よりも本人が、主の御心に聞き従い、聖さを保つ態度が選択できるよう主に祈るばかりです。

感情中心で物事の意味決定がなされるティーンエイジは、不安定で、彼ら自身がそれに苦しんでいます。しかし、一方で何が真理なのかを追い求めてもいます。そのような状態にある彼らを主の尊い器として、キリストに従うものと導いてくださるのは、やはり、揺るがない真理の御ことばであり、それに応答した真摯な祈り、ともに励ましあう仲間、チョット先を行く先輩メンターが必要です。そういう意味で、若者たちが一同に集い互いに研鑽しあう時と場所が年に3回ほどあると互いの成長を喜び、励ましあえるのではないかと感じました。最後に今回受けたチャレンジは、彼らと共に日ごろから祈るという事です。2018年の年末には、主の御心に聞き従う祈りの素晴らしさの証を期待して、主に栄光あれ！



加藤たくみ

はっきりと"NO"と言うことの大切さ

ユースリトリートでは、「恋愛」をテーマに、マイヤー先生、たくみ先生から聖書を通して多くの気づきや発見がありました。個人的には、ヨセフが高官の妻から誘惑を受けたところのメッセージが一番心に残りました。身分や立場がどうであれ、罪や悪、誘惑に対してははっきりと"NO"と言うことの大切さ。そのためには、常に心や身体がイエス様に従っているかを確認し、守る必要を再度学ばされました。ユースとの交わりも、わたしにとってとても新鮮な交わりでした。皆、様々な文化背景の中で、日本人としての価値観や言葉を持って生活している姿に感服しました。彼らがますます主にあって、世界中、そして日本でも用いられていくことをお祈り致します。

最後に、お忙しい中準備し、祈り、ユースのために仕えてくださった皆様に感謝します。また、旅人をもてなしてくださったお一人おひとりにも感謝の気持ちでいっぱいです。皆さまとの交わりの時間は、励ましを得、多くを学ばされました。何よりもとても楽しかったです。神様が一人ひとりに働きかけ、成してくださった御業すべてに感謝して。ハレルヤ！



水村幸与

アガペ、フィレオ、エロス

今回、初めてこのようなクリスチャンの集まりに参加して、クリスチャンではない自分の事を暖かく迎え入れてくださった事に一番感激しました。また、皆、優しく、面白い人達だったので、とても楽しく参加する事ができました。集会のテーマが「恋愛」という事でしたので、とても入りやすく、また、マイヤー牧師のメッセージは、聖書を全く知らない自分でも、理解しやすい内容でよかったです。その中でも、「アガペ、フィレオ、エロス」三つの愛についてと「自分、相手、神様」との三角関係の話は、今後の人生や自身の基準として、とても重要で必要な学びでした。最後のスモールグループでは、みんなのために祈る事ができて、感動しました。最初は、人見知りをしていましたが、最後は皆と仲良くなれてよかったです。



日比千尋

